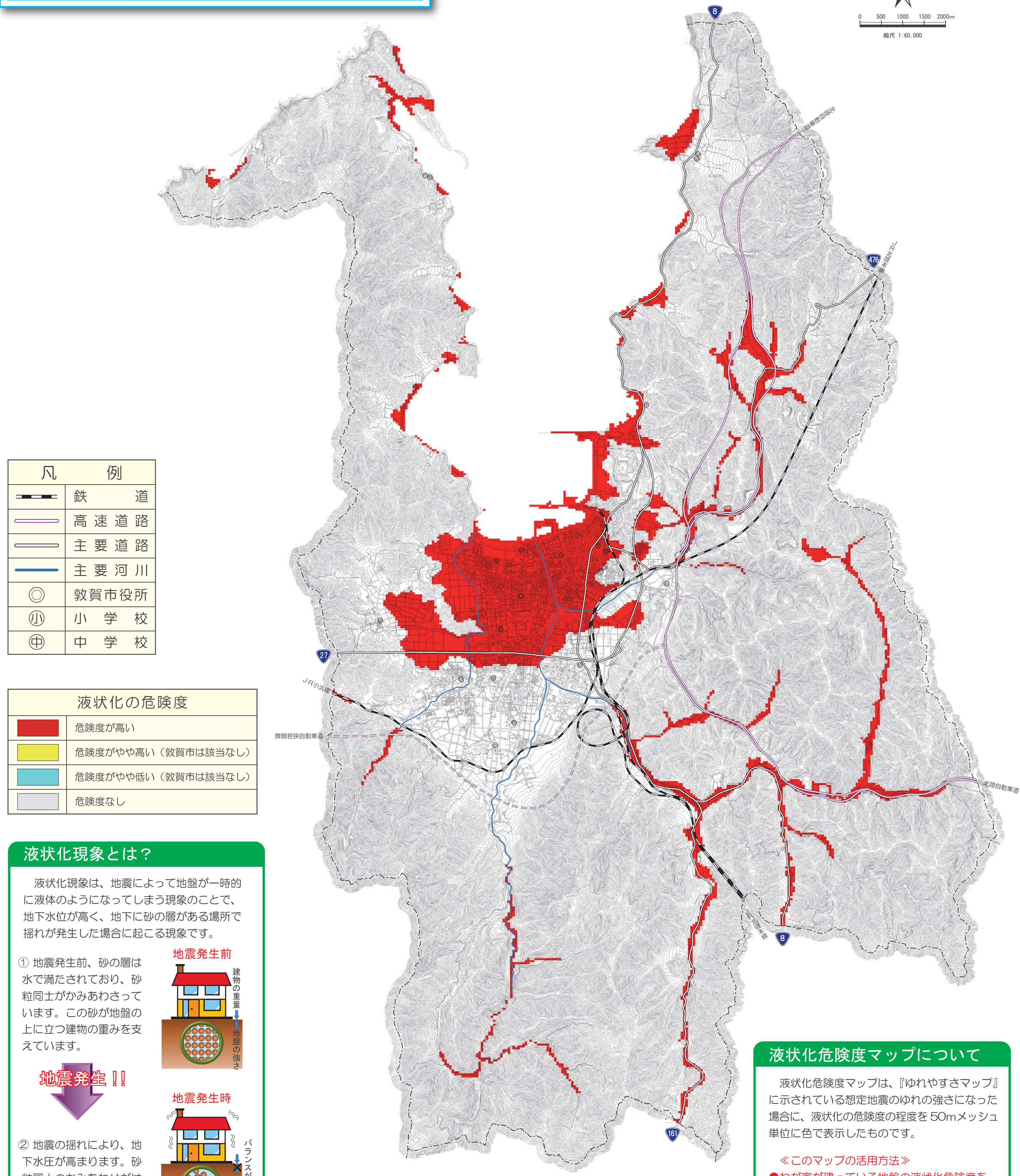


液状化危険度マップ



凡 例	
	鉄 道
	高 速 道 路
	主 要 道 路
	主 要 河 川
	敦 賀 市 役 所
	小 学 校
	中 学 校

液状化の危険度	
	危険度が高い
	危険度がやや高い（敦賀市は該当なし）
	危険度がやや低い（敦賀市は該当なし）
	危険度なし

液状化現象とは？

液状化現象は、地震によって地盤が一時的に液体のようになってしまう現象のことで、地下水位が高く、地下に砂の層がある場所で揺れが発生した場合に起こる現象です。

- 地震発生前、砂の層は水で満たされており、砂粒同士がかみあわさっています。この砂が地盤の上に立つ建物の重みを支えています。
- 地震の揺れにより、地下水圧が高まります。砂粒同士のかみあわせがはずれ、水中に浮いて液状化します。
- 地盤の中の支えを失った建物が土の中に沈みこんで倒壊したり、地割れや噴砂、道路の陥没などの被害が発生します。

液状化危険度マップについて

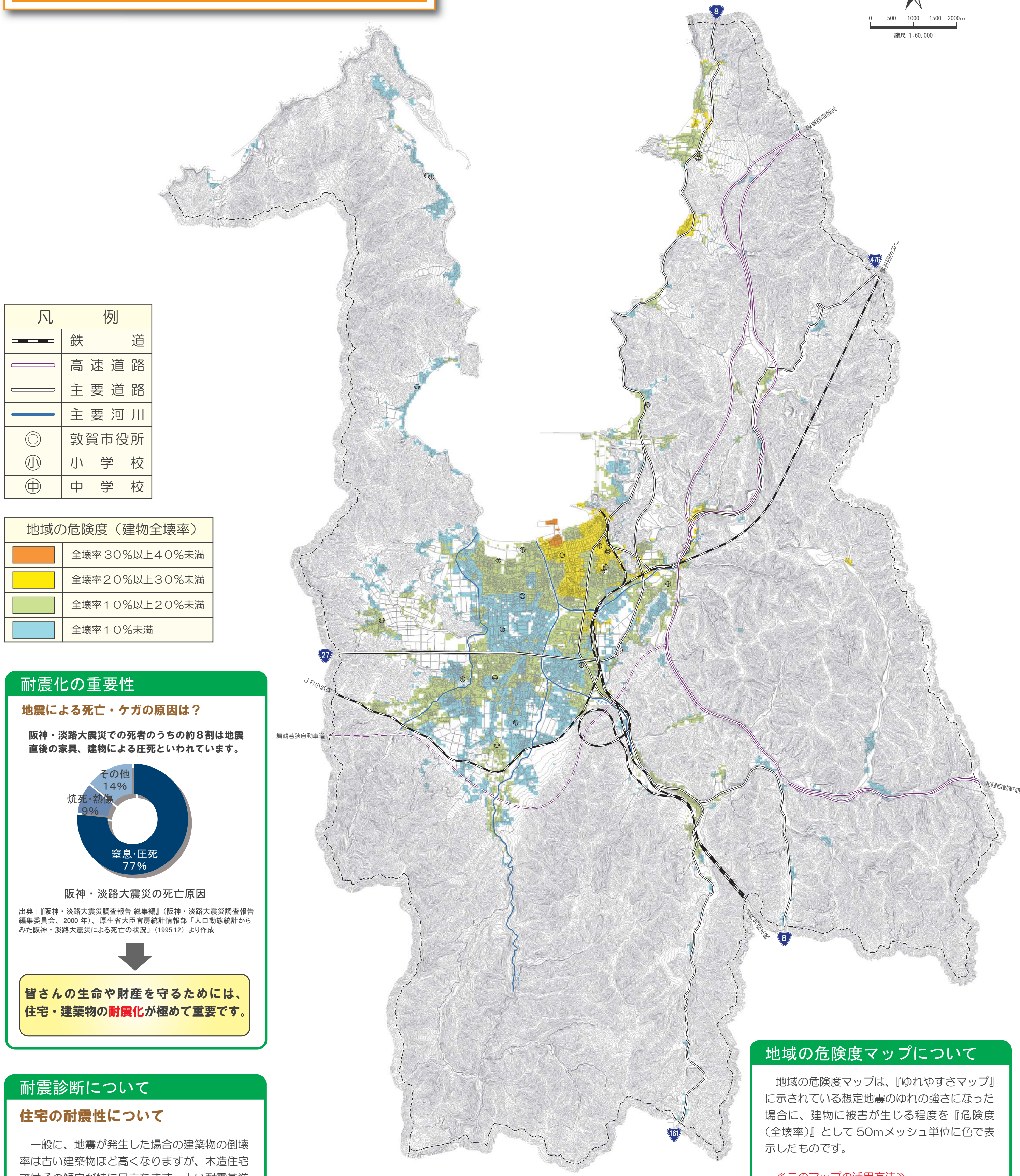
液状化危険度マップは、『ゆれやすさマップ』に示されている想定地震のゆれの強さになった場合に、液状化の危険度の程度を50mメッシュ単位に色で表示したものです。

《このマップの活用方法》

- わが家が建っている液状化危険度をチェックしましょう。
- 避難経路や避難場所を確認し、家族・地域で避難方法などについて話し合っておきましょう。

※地震の発生仕方によっては、液状化の危険度が変わる場合があります。あくまでも予測結果であることを理解したうえで、防災対策にご活用ください。

地域の危険度マップ



凡 例	
	鉄 道
	高 速 道 路
	主 要 道 路
	主 要 河 川
	敦 賀 市 役 所
	小 学 校
	中 学 校

地域の危険度（建物全壊率）	
	全壊率30%以上40%未満
	全壊率20%以上30%未満
	全壊率10%以上20%未満
	全壊率10%未満

耐震化の重要性

地震による死亡・ケガの原因は？

阪神・淡路大震災での死者のうちの約8割は地震直後の家具、建物による圧死といわれています。

阪神・淡路大震災の死亡原因

出典：『阪神・淡路大震災調査報告 総集編』（阪神・淡路大震災調査報告編集委員会、2000年）、厚生省大臣官房統計情報部「人口動態統計からみた阪神・淡路大震災による死亡の状況」（1995.12）より作成

皆さんの生命や財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。

耐震診断について

住宅の耐震性について

一般に、地震が発生した場合の建築物の倒壊率は古い建築物ほど高くなりますが、木造住宅ではその傾向が特に目立ちます。古い耐震基準の時期（昭和56年以前）に建てられた家や、壁が少ない家などは耐震性が低くなっています。耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症例が無くても、耐震診断を受けることが重要です。

地域の危険度マップについて

地域の危険度マップは、『ゆれやすさマップ』に示されている想定地震のゆれの強さになった場合に、建物に被害が生じる程度を『危険度（全壊率）』として50mメッシュ単位に色で表示したものです。

《このマップの活用方法》

- わが家のまわり、学校や職場のまわりの危険度はどのくらいかチェックしましょう。
- わが家の耐震性は十分かチェックし、必要に応じ耐震診断や耐震工事を行いましょう。

※このマップに示す建物被害の危険度は、地域ごとの危険性を示したものであり、個別の建物の危険性を示すものではありません。実際に被害を受けるかどうかは、建物ごとに異なりますのでご注意ください。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平 22 業使、第 454 号）
なお、この地図を第三者がさらに複製又は使用する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平 22 業使、第 454 号）
なお、この地図を第三者がさらに複製又は使用する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。